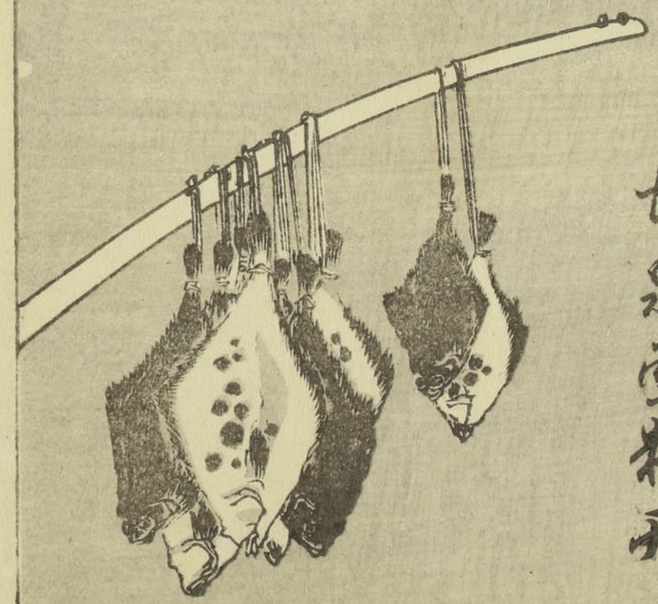
新編金瓶梅第九集
上帙
上

へ13
4454
17

新編金瓶梅

第九集之壹

曲亭菊口授編
香蝶樓精畫



江戸芝神明前三角町
地本問屋
甘泉堂精刊

若夫花鳥風月の如き世の人是を愛ずるは各差あり。詩歌の為に愛る者と風流士とは飲食管絃の為に愛る者と疎人とは賣買利を射る為に愛る者い賈堅之介の中に花に風雨の暴を怕れ鳥に桓山の哀別を慨しと風に萬籟の吼を厭ふべく月に浮雲の障翳かるを觀る者い幽静悟道の達者に花鳥の為に知己とい然べ果敢る菓子物語を好む赤是に似くるとあり趣向の巧みく勸懲の正義を欽ぶ者と真の看巧者とも又巧拙と勸懲とに管のでロい浮るを欽ぶを勾欄下の看官とも又唯匣を見て文を見ぞ只人に話さなそ其崖畧を知まく欲ま い是白髮の小児も書肆の得意るらもあるべ。抑這新編金瓶梅も彼二ものの看官あり左にも右にも勝者の強に扇を抗ざらめやハ。

天保十三壬寅年春正月吉日刊版

盲文人馬琴自序

金花極楽八集
春の魚 第一
名物御神や
白魚を見る
墨田河
愚山人
再出 千早
春の魚 第二
柳葉孔釘挿原や
送り稔魚
鶴齋
再出
志貴實一郎
奴隷
萬平

夏の魚 第三

初堅魚

負ぶふ

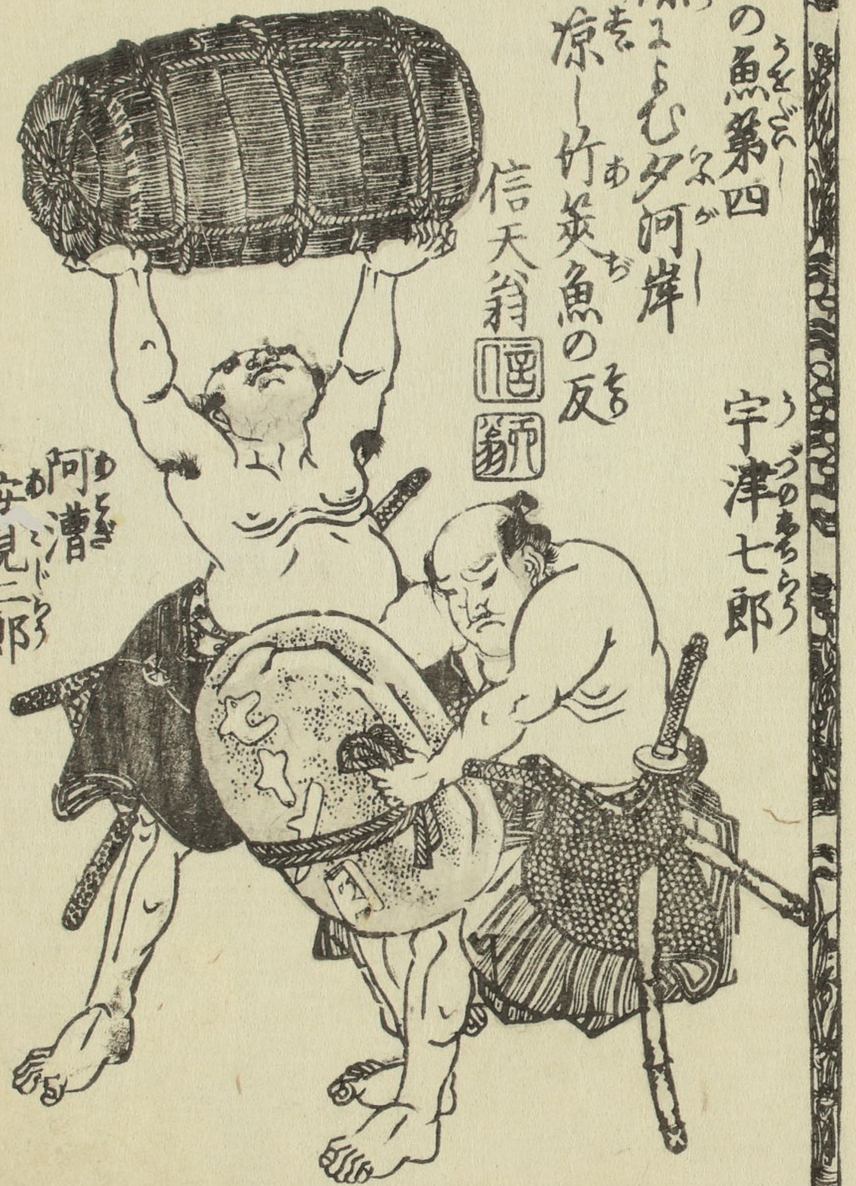
走る

競ひ

狂齋

川北一郎

山路檀作



夏の魚第四

碟ふむ夕河岸

涼し竹筴魚の反

信天翁

宇津七郎

阿漕安見二郎

秋の魚　第五

再出　女官　琴柱

腮藁の秋る海より出さうな

羊肉人

伴當

冬の魚　第六

三出　東戸屋　西啓

膳太し　死あり

つるりぐ

河豚汁

蓑笠

三出　金蓮

潮

木

金鬼海賊九集
十
松
書
老人

金鬼海賊九集
楠
石
賢

松
夢
山

川
千

楠
松
川
安
虎
比

新編金瓶梅九集

曲亭馬琴作
香蝶樓國貞画

繪本名頭武者部類　前北斎筆　全　千葉百人一首　女用文入　中本　全

女流用文章　千井蘭山先生述　竹家流　ちらし　五入

煎茶仕様集　中本　せん茶一切のこと　大和のかなんまぜくらべくちこん

蘭山先生著　女男に書くべき物の絶やすべからざるを第一とするなり故に予くのうち鑑ごとたとへば人おきたるに必ずこれを書くべし

女用文章　きれ紙かりものうけ本物のうるまでその深意をもとるちその別ぐ文字とたけてことばづくりにたんざく短冊うちの書くべきめやすし家の折ふしまひ形でも行れを茶を出して徒然をとそへられ客をもてなすにそのそくとうけるべし

大女一冊

鶴賀新内正本所

和泉屋市兵衛

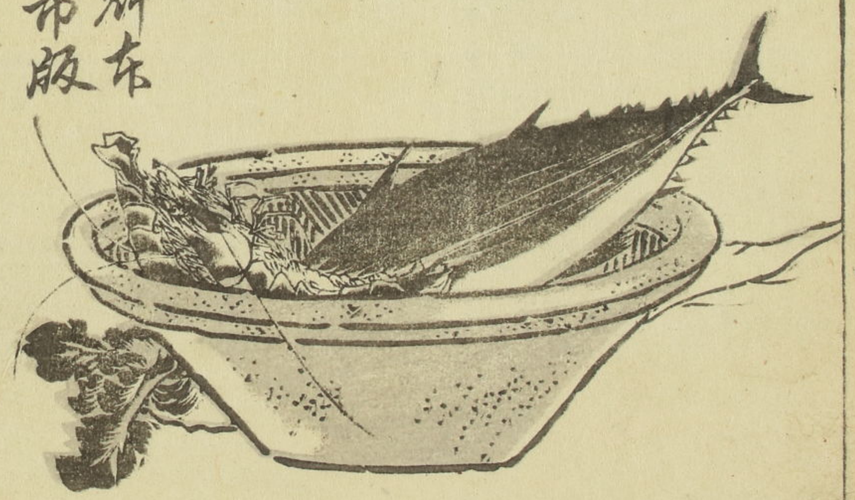
馬琴作
國貞画

上帙
下

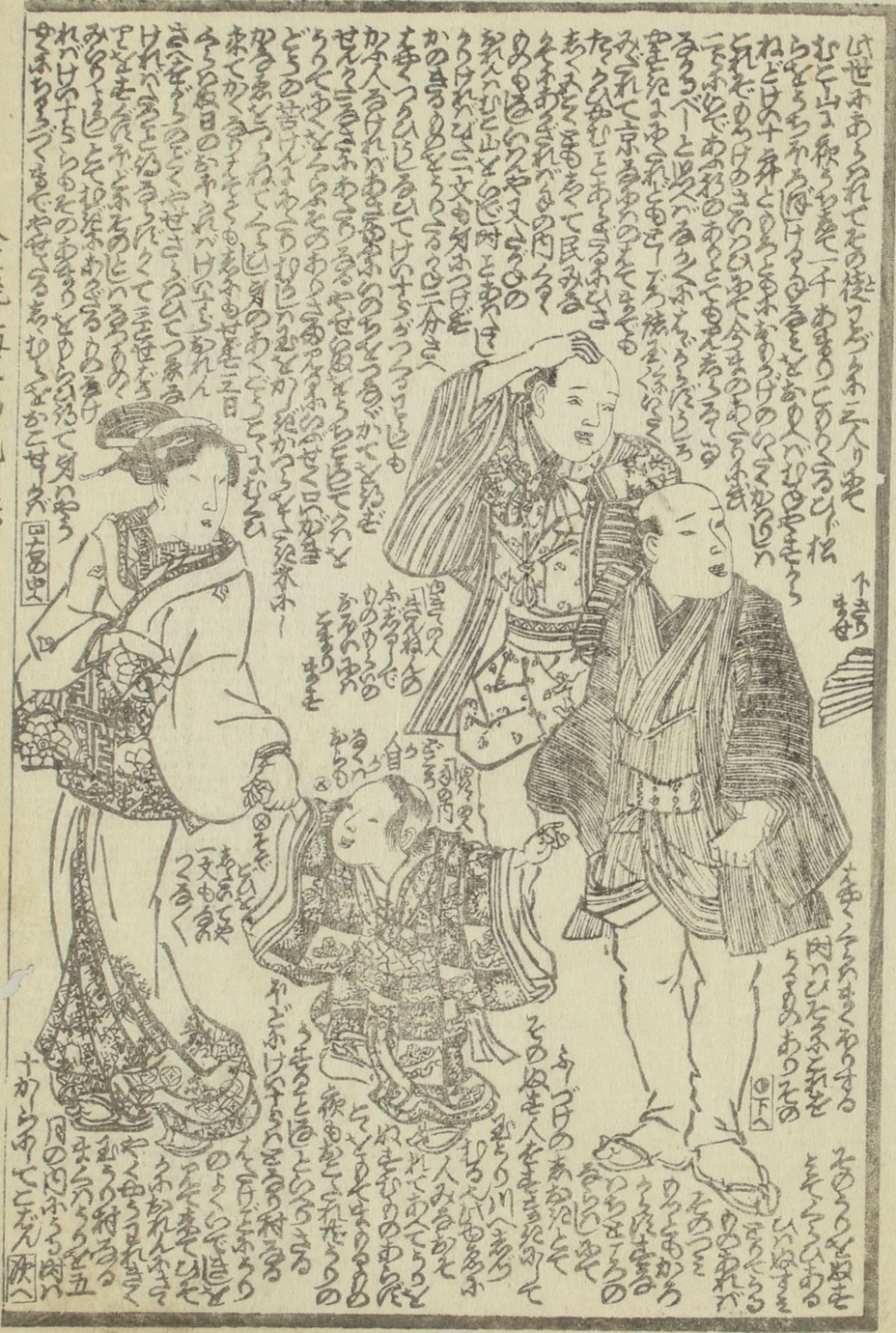
曲亭菊口授編
香蝶楼精画

新編金瓶梅
第九集
之貳

天保壬寅孟春刊布
續刻精刷芝泉市版



眼
顔
眼
顔



白
陸

陸

白
蓮

家傳神女湯　[illegible]

精製長寿應丸　[illegible]

熊胆黒丸子　[illegible]

婦人必用姫菜　[illegible]

製茶本家　[illegible]

弘所元盛町中坂下四方の高たに沢氏

國貞画

馬琴作

清書　谷金川

甘泉堂蔵板略目

壽福三世相大鏡

世に二世おの[illegible]

添氏繪かるた

極彩色

[illegible]

江戸流行菓子話船橋

[illegible]

添氏哥かるた

若入

江戸書肆地本問屋　芝神明前　和泉屋市兵衛

特別
へ13
4454
17